



2020年3月期第2四半期 決算説明会

2019年11月14日
宝ホールディングス株式会社

本日の内容

I. 2020年3月期 第2四半期決算 および 2020年3月期 通期業績予想

(発表者：取締役 森 圭助)

1. 2020年3月期 第2四半期決算
2. 2020年3月期 通期業績予想

II. 2020年3月期 事業戦略

(発表者：代表取締役社長 木村 睦)

1. 「宝グループ中期経営2019」進捗状況
2. 宝酒造（国内事業）
3. 宝酒造インターナショナルグループ（海外事業）
4. 経営基盤の強化

<参考資料> 為替レート、粗留アルコール輸入通関（CIF）価格の推移



2

【2020年3月期第2四半期決算 および 2020年3月期業績予想 発表者：取締役 森 圭助】

- ▶ 本日はお忙しい中、宝グループの2020年3月期第2四半期の決算説明会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。
- ▶ 2020年3月期第2四半期の決算と2020年3月期通期の業績予想についてご説明します。

1. 2020年3月期 第2四半期決算

- ▶ 2020年3月期第2四半期の決算についてご説明します。

2020年3月期 第2四半期（累計）宝ホールディングス（連結）業績

第2四半期累計期間 連結損益計算書（売上高～営業利益）

（百万円）

	2020年3月期 第2四半期末結	前期比		5/14予想比		為替レート影響額	
		増減	率(%)	増減	率(%)	前期比	5/14予想比
宝 酒 造	75,135	1,875	+2.6	▲ 622	▲ 0.8	—	—
宝 酒 造 インターナショナルグループ	40,477	2,950	+7.9	300	+0.7	▲ 756	294
タ カ ラ バ イ オ グ ル ー プ	16,450	▲ 919	▲ 5.3	▲ 678	▲ 4.0	▲ 229	200
そ の 他	15,770	▲ 301	▲ 1.9	▲ 159	▲ 1.0	—	—
調 整 額	▲ 10,331	▲ 90	—	▲ 137	—	2	▲ 0
売 上 高	137,502	3,514	+2.6	▲ 1,297	▲ 0.9	▲ 983	494
売 上 原 価	84,468	3,136	+3.9	▲ 31	▲ 0.0		
売 上 総 利 益	53,033	378	+0.7	▲ 1,266	▲ 2.3		
運 送 費	5,206	279	+5.7	▲ 193	▲ 3.6		
広 告 宣 伝 費	952	▲ 456	▲ 32.4	▲ 47	▲ 4.8		
販 売 促 進 費	17,011	551	+3.4	▲ 188	▲ 1.1		
研 究 開 発 費	2,057	▲ 229	▲ 10.0	▲ 142	▲ 6.5		
管 理 費 、 そ の 他	20,182	768	+4.0	82	+0.4		
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	45,410	914	+2.1	▲ 489	▲ 1.1		
宝 酒 造	2,082	▲ 193	▲ 8.5	▲ 210	▲ 9.2		
宝 酒 造 インターナショナルグループ	1,565	▲ 869	▲ 35.7	▲ 881	▲ 36.0		
タ カ ラ バ イ オ グ ル ー プ	3,035	411	+15.7	117	+4.0		
そ の 他	1,081	126	+13.3	119	+12.5		
調 整 額	▲ 140	▲ 10	—	79	—		
営 業 利 益	7,623	▲ 535	▲ 6.6	▲ 776	▲ 9.2		



4

【宝ホールディングス連結:連結損益計算書(売上高～営業利益)】

＜前期比＞

- ▶ 連結売上高は35億1,400万円増収の1,375億200万円となりました。
- ▶ 売上総利益は、売上高が前期に対して2.6%伸長したものの、原材料価格のアップや為替変動による仕入コストの上昇などに伴い、3億7,800万円増益の530億3,300万円となり、前期に対して0.7%の伸びにとどまりました。
- ▶ 販売費及び一般管理費は、運送費や販売促進費、管理費その他が増加し、営業利益は5億3,500万円減益の76億2,300万円となりました。

- ▶ セグメント別では、売上高については、タカラバイオグループが、前期にキノコ事業と健康食品事業を譲渡したことに伴い減収となりましたが、宝酒造および宝酒造インターナショナルグループが増収となり、全体では増収となりました。
- ▶ 一方、利益面では、宝酒造で原材料価格や製造費用のコストアップがあり、また宝酒造インターナショナルグループでは為替レートの変動による仕入れコストの上昇や人件費の増加により、それぞれ営業利益が前期を下回ったことから、タカラバイオグループが増益となったものの、全体では減益となりました。

＜期初(5/14)予想比＞

- ▶ 売上高は宝酒造インターナショナルグループが予想を上回り、営業利益はタカラバイオグループ、その他の国内グループ会社が予想を上回りましたが、グループ全体では売上高、営業利益とも予想を下回りました。

2020年3月期 第2四半期（累計）宝ホールディングス（連結）業績

第2四半期累計期間 連結損益計算書（営業利益～四半期純利益）

（百万円）

	2020年3月期 第2四半期実結	前期比		5/14予想比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
営業利益	7,623	▲ 535	▲ 6.6	▲ 776	▲ 9.2
受取利息・配当金	472	69	+17.3	92	+24.3
その他営業外収益	387	184	+90.5	267	+222.9
営業外収益	859	253	+41.9	359	+71.9
支払利息	203	21	+11.6	23	+13.1
その他営業外費用	408	69	+20.5	188	+85.6
営業外費用	612	90	+17.4	212	+53.0
経常利益	7,871	▲ 372	▲ 4.5	▲ 628	▲ 7.4
特別利益	40	32	+420.7	30	+303.4
特別損失	291	12	+4.5	▲ 18	▲ 6.0
税金等調整前四半期純利益	7,620	▲ 352	▲ 4.4	▲ 579	▲ 7.1
法人税、住民税及び事業税	2,288	▲ 370	▲ 13.9	▲ 264	▲ 10.2
法人税等調整額	46	241	—		
四半期純利益	5,285	▲ 223	▲ 4.1	▲ 314	▲ 5.6
非支配株主に帰属する四半期純利益	911	▲ 18	▲ 2.0	▲ 88	▲ 8.9
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,374	▲ 204	▲ 4.5	▲ 225	▲ 4.9



5

【宝ホールディングス連結:連結損益計算書(営業利益～親会社株主に帰属する四半期純利益)】

＜前期比＞

- ▶ 営業外収益・営業外費用の両方が前期に比べ増加した結果、営業外収支は増益に寄与しましたが、連結経常利益は3億7,200万円減益となる78億7,100万円となりました。
- ▶ 特別損益では、固定資産除売却損などを特別損失に計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億400万円減益となる43億7,400万円となりました。

＜期初(5/14)予想比＞

- ▶ 経常利益は6億2,800万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億2,500万円、期初予想を下回りました。

2020年3月期 第2四半期（累計）宝ホールディングス（連結）業績

第2四半期末 連結貸借対照表

(百万円)

	2019年3月末	2019年9月末	増減		2019年3月末	2019年9月末	増減
流 動 資 産	175,011	161,139	▲ 13,872	流 動 負 債	57,822	53,245	▲ 4,576
現金及び預金	49,415	42,882	▲ 6,533	支払手形及び買掛金	16,374	15,348	▲ 1,026
受取手形及び売掛金	59,780	59,387	▲ 392	借入金・社債	9,960	9,690	▲ 269
有 価 証 券	16,089	7,136	▲ 8,953	そ の 他	31,487	28,206	▲ 3,280
た な 卸 資 産	46,035	46,984	949	固 定 負 債	49,489	45,375	▲ 4,113
そ の 他	3,690	4,748	1,058	借入金・社債	30,415	25,479	▲ 4,935
固 定 資 産	112,094	116,236	4,141	そ の 他	19,073	19,895	822
有形固定資産	60,576	66,751	6,174	負 債 合 計	107,311	98,620	▲ 8,690
無形固定資産	19,914	18,630	▲ 1,284	株 主 資 本 合 計	139,064	139,919	855
の れ ん	12,400	11,608	▲ 791	資本金・資本剰余金	15,643	15,643	-
そ の 他	7,514	7,021	▲ 492	利 益 剰 余 金	124,788	125,644	855
投資その他の資産	31,603	30,854	▲ 748	自 己 株 式	▲ 1,368	▲ 1,368	▲ 0
投資有価証券	26,143	26,299	156	その他包括利益累計額	9,133	7,148	▲ 1,984
そ の 他	5,459	4,554	▲ 904	非支配株主持分	31,597	31,686	89
資 産 合 計	287,106	277,375	▲ 9,730	純 資 産 合 計	179,795	178,754	▲ 1,040

第2四半期累計期間 設備投資額、減価償却費、のれん償却費

	2020年3月期 第2四半期実績	前期比 増減 率(%)	5/14予想比 増減 率(%)
設備投資額（有形・無形）	8,421	+5,818 +223.5	
減価償却費（有形・無形）	3,364	+181 +5.7	+64 +2.0
の れ ん 償 却 費	424	▲ 5 ▲ 1.3	+4 +1.0



6

【宝ホールディングス連結:連結貸借対照表】

<資産の部>

- ▶流動資産は全体で138億7,200万円減少しました。
- ▶現預金・有価証券は合計で154億8,600万円減少しましたが、これは借入金51億円の返済や設備投資資金の支払いなどによるものです。
- ▶固定資産は全体で41億4,100万円増加しました。有形固定資産は、宝酒造の缶チューハイラインの生産設備の増強やタカラバイオの新施設建設により61億7,400万円増加し、無形固定資産は12億8,400万円減少し、投資その他の資産は7億4,800万円減少しました。
- ▶資産合計は3月末に比べ97億3,000万円減少しました。

<負債の部>

- ▶流動負債は、借入金の返済や、未払酒税の減少がありましたが、1年内償還予定の社債50億円が固定負債から振り替わったことから、ネットでは45億7,600万円の減少となりました。
- ▶固定負債は41億1,300万円の減少となり、この結果、負債合計は前期末に比べ86億9,000万円の減少となりました。

<純試算の部>

- ▶利益剰余金は、親会社株主に帰属する四半期純利益43億7,400万円と、配当金の支払い35億9,300万円などにより、結果として8億5,500万円増加しました。
- ▶その他包括利益累計額の減少19億8,400万円は、3月末対比で為替レートが円高となったことによる為替換算調整勘定の減少が主な要因です。
- ▶純資産合計は前期末に比べ10億4,000万円減少しました。

第2四半期累計期間 連結キャッシュフロー計算書

(百万円)

	2019年3月期 第2四半期実績	2020年3月期 第2四半期実績	増減
営業キャッシュ・フロー	4,140	▲ 345	▲ 4,485
税金等調整前四半期純利益	7,972	7,620	▲ 352
減価償却費等	3,655	3,789	133
運転資本の増減	▲ 3,546	▲ 7,435	▲ 3,888
法人税等の支払額	▲ 4,543	▲ 2,918	1,624
その他	602	▲ 1,400	▲ 2,003
投資キャッシュ・フロー	▲ 4,653	▲ 1,922	2,730
有形・無形固定資産の取得	▲ 3,956	▲ 4,830	▲ 873
その他	▲ 697	2,907	3,604
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 512	▲ 2,267	▲ 1,754
財務キャッシュ・フロー	▲ 3,851	▲ 9,214	▲ 5,362
有利子負債の増減	▲ 257	▲ 5,116	▲ 4,859
自己株式の取得による支出	▲ 0	▲ 0	0
配当金の支払額	▲ 3,405	▲ 3,920	▲ 514
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	▲ 82	—	82
その他	▲ 105	▲ 178	▲ 72
現金及び現金同等物為替換算差額	▲ 744	▲ 773	▲ 28
現金及び現金同等物増減	▲ 5,109	▲ 12,256	▲ 7,146
現金及び現金同等物期首残高	49,341	48,580	▲ 760
現金及び現金同等物期末残高	44,231	36,324	▲ 7,907



【宝ホールディングス連結:連結キャッシュフロー計算書】

- ▶ 営業キャッシュフローはマイナス3億4,500万円で、前期比で44億8,500万円の減少となりました。運転資本に含まれる、未払酒税や未払消費税などが減少したのが主な要因です。
- ▶ 投資キャッシュフローは、マイナス19億2,200万円となりました。設備投資による固定資産の取得が48億3,000万円ありましたが、有価証券の償還などもあり、前期比で27億3,000万円の減少となりました。
- ▶ 財務キャッシュフローはマイナス92億1,400万円で、借入金の返済と配当金の支払いが主な理由です。
- ▶ 当第2四半期末の現金及び現金同等物残高は前年同期末に比べ79億700万円減少しました。

第2四半期累計期間 損益計算書（売上高～営業利益）

（百万円）

	2020年3月期 第2四半期末結	前期比		5/14予想比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
焼酎	24,976	▲ 1,802	▲ 6.7	▲ 707	▲ 2.8
清酒	8,302	▲ 97	▲ 1.2	▲ 392	▲ 4.5
ソフトアルコール飲料	21,744	2,058	+10.5	▲ 585	▲ 2.6
その他の酒類	3,259	74	+2.3	174	+5.7
本みりん	7,197	727	+11.2	479	+7.1
その他の調味料	5,140	480	+10.3	119	+2.4
原料用アルコール等	4,514	435	+10.7	289	+6.9
売上高	75,135	1,875	+2.6	▲ 622	▲ 0.8
売上原価	45,586	1,441	+3.3	29	+0.1
売上総利益	29,549	433	+1.5	▲ 651	▲ 2.2
運送費	3,962	352	+9.8	▲ 50	▲ 1.3
広告宣伝費	875	▲ 324	▲ 27.1	▲ 59	▲ 6.3
販売促進費	16,431	585	+3.7	▲ 234	▲ 1.4
研究開発費	195	16	+9.1	▲ 41	▲ 17.4
管理費、その他	6,002	▲ 2	▲ 0.0	▲ 54	▲ 0.9
販売費及び一般管理費	27,467	627	+2.3	▲ 440	▲ 1.6
営業利益	2,082	▲ 193	▲ 8.5	▲ 210	▲ 9.2

第2四半期累計期間 売上総利益増減 内訳

※利益の増加要因を「+」、減少要因を「△」で表示

		前期比増減		5/14予想比増減	
		数量差	単価差	数量差	単価差
売上総利益 計		+433	+664	▲ 651	▲ 106
主な内訳	焼酎	▲ 751	▲ 703	▲ 278	▲ 224
	清酒	▲ 74	▲ 7	▲ 172	▲ 118
	ソフトアルコール飲料	+755	+762	▲ 179	▲ 169
	本みりん	+385	+417	+257	+215
(参考) 原価コストダウン		▲ 526	※上記数量差および単価差に含む	▲ 210	※上記数量差および単価差に含む



【宝酒造:連結損益計算書】

<前期比>

- ▶ 売上高は18億7,500万円増収の751億3,500万円となりました。
- ▶ カテゴリー別では、焼酎、清酒が減収となりましたが、ソフトアルコール飲料や調味料、原料用アルコール等が増収となりました。
- ▶ 売上総利益は、原材料のコストアップなどにより、4億3,300万円増益の295億4,900万円となりました。
- ▶ 販売費及び一般管理費は、6億2,700万円増加の274億6,700万円となりました。広告宣伝費は減少しましたが、運送費、販売促進費等が増加しました。
- ▶ 営業利益は、1億9,300万円減益の20億8,200万円となりました。

<期初(5/14)予想比>

- ▶ 焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料の売上高の未達を、本みりんなどその他のカテゴリーの伸びではカバーできず、全体の売上高は期初予想を6億2,200万円下回りました。
- ▶ また、計画外のコストアップなどにより売上原価が増加し、売上総利益の段階で計画を6億5,100万円下回ったことから、販売費及び一般管理費のコントロールに努めたものの、営業利益は期初予想を2億1,000万円下回りました。

2020年3月期 第2四半期（累計）宝酒造インターナショナルグループ 業績

第2四半期累計期間 損益計算書（売上高～営業利益）

（百万円）

	2020年3月期 第2四半期実績	前期比		5/14予想比		為替レート影響額	
		増減	率(%)	増減	率(%)	前期比	5/14予想比
海外酒類	5,433	389	+7.7	267	+5.2	▲45	56
海外日本食材卸	36,097	2,637	+7.9	27	+0.1	▲702	253
その他の	179	143	+396.9	142	+385.0	—	—
連結消去	▲1,233	▲219	—	▲137	—	▲8	▲15
売上高	40,477	2,950	+7.9	300	+0.7	▲756	294
売上原価	28,994	2,664	+10.1	838	+3.0		
売上総利益	11,483	286	+2.6	▲537	▲4.5		
運送費	1,203	128	+11.9	▲110	▲8.4		
広告宣伝費	40	▲11	▲22.0	▲8	▲16.3		
販売促進費	334	39	+13.5	27	+9.0		
管理費、その他	8,338	999	+13.6	434	+5.5		
販売費及び一般管理費	9,918	1,155	+13.2	344	+3.6		
海外酒類	983	71	+7.8	79	+8.8		
海外日本食材卸	1,367	▲872	▲39.0	▲1,013	▲42.6		
その他の	▲364	116	—	242	—		
連結消去	▲420	▲183	—	▲189	—		
営業利益	1,565	▲869	▲35.7	▲881	▲36.0		



【宝酒造インターナショナルグループ:連結損益計算書】

＜前期比＞

- ▶売上高は、海外酒類が3億8,900万円、海外日本食材卸が26億3,700万円、それぞれ増収となり、全体では29億5,000万円増収の404億7,700万円となりました。
- ▶売上総利益は、為替変動による仕入コストの上昇などにより、2億8,600万円増益の114億8,300万円にとどまりました。
- ▶販売費及び一般管理費は、運送費や、管理費その他に含まれる人件費などが大きく増加したことから、営業利益は8億6,900万円の減益の15億6,500万円となりました。
- ▶海外酒類事業は7,100万円の増益となりましたが、海外日本食材卸事業は8億7,200万円の減益となりました。

＜期初(5/14)予想比＞

- ▶売上高は3億円上回ったものの、営業利益は8億8,100万円下回りました。

2. 2020年3月期 通期業績予想

- ▶ 2020年3月期の通期の業績予想についてご説明します。

2020年3月期 宝ホールディングス 通期 連結業績予想

通期予想 連結損益計算書（売上高～当期純利益）

（百万円）

	2020年3月期 通期予想	前期比		5/14予想比		為替レート影響額	
		増減	率(%)	増減	率(%)	前期比	5/14予想比
宝 酒 造	157,787	5,329	+3.5	▲1,218	▲0.8	—	—
宝酒造インターナショナルグループ	81,546	3,711	+4.8	▲1,949	▲2.3	▲3,843	▲1,370
タカラバイオグループ	33,900	▲1,941	▲5.4	▲2,100	▲5.8	▲959	▲96
その他の	31,985	▲757	▲2.3	▲747	▲2.3	—	—
調整額	▲21,218	213	—	14	—	13	7
売上高	284,000	6,556	+2.4	▲6,000	▲2.1	▲4,789	▲1,460
売上原価	173,500	4,805	+2.8	▲1,700	▲1.0		
売上総利益	110,500	1,750	+1.6	▲4,300	▲3.7		
運送費	11,000	837	+8.2	▲200	▲1.8		
広告宣伝費	2,000	▲755	▲27.4	▲500	▲20.0		
販売促進費	35,500	1,487	+4.4	▲400	▲1.1		
研究開発費	4,400	▲308	▲6.6	▲400	▲8.3		
管理費、その他	40,100	794	+2.0	▲1,300	▲3.1		
販売費及び一般管理費	93,000	2,054	+2.3	▲2,800	▲2.9		
宝 酒 造	5,760	▲188	▲3.2	▲527	▲8.4		
宝酒造インターナショナルグループ	3,795	▲737	▲16.3	▲1,205	▲24.1		
タカラバイオグループ	6,200	736	+13.5	—	—		
その他の	2,043	88	+4.5	13	+0.6		
調整額	▲298	▲202	—	219	—		
営業利益	17,500	▲304	▲1.7	▲1,500	▲7.9		
経常利益	18,000	▲359	▲2.0	▲1,500	▲7.7		
親会社株主に帰属する当期純利益	10,400	▲11	▲0.1	▲300	▲2.8		



11

【宝ホールディングス連結:通期業績予想】

- ▶ 連結売上高は、対前期では増収を見込むものの、期初予想に対しては60億円下回る2,840億円を計画しています。
- ▶ 利益面でも、原材料価格や仕入コストの上昇、販管費の増加が下期も続くと見込まれることから、宝酒造、宝酒造インターナショナルグループで前年を下回る見通しであり、タカラバイオグループでは増益を見込むものの、全体の営業利益は対前期で3億400万円、期初予想を15億円下回る175億円となる計画です。
- ▶ 親会社株主に帰属する当期純利益については、特別利益と特別損失の収支が前期に比べ改善する見通しであることから、期初予想に対しては未達となるものの、概ね前期並みの水準となる104億円を計画しています。

通期予想 損益計算書 (売上高～営業利益)

(百万円)

	2020年3月期 通期予想	前期比		5/14予想比	
		増減	率(%)	増減	率(%)
焼酎	51,281	▲ 2,101	▲ 3.9	▲ 848	▲ 1.6
清酒	22,244	849	+4.0	▲ 352	▲ 1.6
ソフトアルコール飲料	44,070	5,292	+13.6	▲ 690	▲ 1.5
その他の酒類	6,542	59	+0.9	110	+1.7
本みりん	14,250	380	+2.7	270	+1.9
その他の調味料	10,444	729	+7.5	93	+0.9
原料用アルコール等	8,956	119	+1.4	199	+2.3
売上高	157,787	5,329	+3.5	▲ 1,218	▲ 0.8
売上原価	94,951	3,509	+3.8	286	+0.3
売上総利益	62,836	1,820	+3.0	▲ 1,504	▲ 2.3
運送費	8,330	716	+9.4	▲ 9	▲ 0.1
広告宣伝費	1,880	▲ 514	▲ 21.5	▲ 514	▲ 21.5
販売促進費	34,340	1,681	+5.1	▲ 338	▲ 1.0
研究開発費	450	81	+22.2	▲ 25	▲ 5.3
管理費、その他	12,076	43	+0.4	▲ 91	▲ 0.7
販売費及び一般管理費	57,076	2,008	+3.6	▲ 977	▲ 1.7
営業利益	5,760	▲ 188	▲ 3.2	▲ 527	▲ 8.4

売上総利益増減 内訳

※利益の増加要因を「+」、減少要因を「△」で表示

	前期比増減	5/14予想比増減	
		(参考) 原価コストダウン	(参考) 原価コストダウン
売上総利益 計	+1,820	▲703	▲1,504



【宝酒造:通期業績予想】

- ▶ 売上高は前期比53億2,900万円増収の1,577億8,700万円、営業利益は前期比で1億8,800万円の減益となる57億6,000万円を計画しています。
- ▶ 焼酎の売上高の減少を、他のカテゴリーの増収で補い、全体では増収となるものの、原材料のコストアップや、運送費、販売促進費などの増加により、減益となる見込みです。
- ▶ 期初予想との比較でも、売上高の未達と原価の上昇による売上総利益の減少を販管費の抑制でカバーすることが難しく、売上高、営業利益ともに期初予想を下回る見通しです。

2020年3月期 宝酒造インターナショナルグループ 業績予想

通期予想 損益計算書 (売上高～営業利益)

(百万円)

	2020年3月期 通期予想	前期比		5/14予想比		為替レート影響額	
		増減	率(%)	増減	率(%)	前期比	5/14予想比
海外酒類	11,211	452	+4.2	▲46	▲0.4	▲452	▲184
海外日本食材卸	72,535	3,580	+5.2	▲1,830	▲2.5	▲3,425	▲1,181
その他の	206	143	+228.5	141	+216.9	—	—
連結消去	▲2,406	▲465	—	▲214	—	35	▲4
売上高	81,546	3,711	+4.8	▲1,949	▲2.3	▲3,843	▲1,370
売上原価	57,887	3,063	+5.6	▲558	▲1.0		
売上総利益	23,659	648	+2.8	▲1,391	▲5.6		
運送費	2,520	242	+10.7	▲183	▲6.8		
広告宣伝費	82	▲28	▲25.9	▲13	▲13.7		
販売促進費	750	15	+2.1	9	+1.2		
管理費、その他	16,512	1,155	+7.5	1	+0.0		
販売費及び一般管理費	19,864	1,385	+7.5	▲186	▲0.9		
海外酒類	2,247	264	+13.3	160	+7.7		
海外日本食材卸	3,058	▲863	▲22.0	▲1,615	▲34.6		
その他の	▲865	70	—	448	—		
連結消去	▲645	▲208	—	▲198	—		
営業利益	3,795	▲737	▲16.3	▲1,205	▲24.1		



13

【宝酒造インターナショナルグループ:通期業績予想】

- ▶ 売上高は、海外酒類事業、海外日本食材卸事業ともに対前期では引き続き好調で、為替換算レートのマイナス影響38億4,300万円を受けながらも、前期比37億1,100万円増収となる815億4,600万円を計画しています。
- ▶ 営業利益については、海外酒類事業は増益となるものの、海外日本食材卸事業で為替変動による仕入れコストの上昇と、運送費や人件費などの費用の増加が大きく、減益となる見通しで、営業利益の合計額は前期比7億3,700万円の減益となる37億9,500万円の計画です。
- ▶ 期初予想との比較でも、売上高、営業利益ともに期初計画を下回る見通しです。

Ⅱ．2020年3月期 事業戦略

1．「宝グループ中期経営計画2019」 進捗状況

【2020年3月期事業戦略 発表者:代表取締役社長 木村 睦】

▶2020年3月期の事業戦略についてご説明します。

「宝グループ中期経営計画2019」（2018年3月期～2020年3月期）

◆基本方針

海外売上高比率をさらに高めるとともに、国内外で抜け・モレのない商品と競争優位性をもった商品を多数もつことで、他社に勝てる分野を数多く築き上げ、どんな環境変化が起ころうとも収益を大きく伸長させることができる
バランスのとれた事業基盤を確立する

◆定量目標および通期予想（2020年3月期）

	定量目標	期初予想 (2019/5/14)	修正予想 (2019/11/12)
売上高	2,950億円 以上	2,900億円	2,840億円
営業利益	187億円 以上	190億円	175億円
海外売上高 比率	35.0% 以上	36.0%	35.4%

※2018年5月に定量目標の上方修正を発表



15

- ▶ 当社グループは現在、2018年3月期から3年間の中期経営計画、「宝グループ中期経営計画2019」に取り組んでおり、当期はその最終年度になります。

「宝グループ中期経営計画2016」

<基本方針>

「海外売上高比率をさらに高めるとともに、国内外で抜け・モレのない商品と競争優位性をもった商品を多数もつことで、他社に勝てる分野を数多く築き上げ、どんな環境変化が起ころうとも収益を大きく伸長させることができるバランスのとれた事業基盤を確立する」

<定量目標：2020年3月期 宝グループ連結>

- ・売上高 2,950億円以上
- ・営業利益 187億円以上
- ・海外売上高比率 35%以上

(2018年5月 上方修正)

- ▶ 当期の期初の時点ではこれをさらに上回る利益目標を定め、取り組んでいます。第2四半期までの進捗状況や、原材料価格、為替の動向などを考慮した結果、通期の業績予想を下方修正することとし、期初予想および中計の定量目標に未達となる見通しとなりました。

グループ別		定量目標	期初予想 (2019/5/14)	修正予想 (2019/11/12)
宝酒造	売上高	1,600億円 以上	1,590億円	1,577億円
	営業利益	62億円 以上	62億円	57億円
宝酒造 インターナショナル グループ	売上高	830億円 以上	834億円	815億円
	営業利益	52億円 以上	50億円	37億円
タカラバイオ グループ	売上高	385億円 以上	360億円	339億円
	営業利益	60億円 以上	62億円	62億円

- ▶グループ別の目標値と予想値は記載の通りです。
- ▶詳細については後ほどご説明しますが、宝酒造では原価のコストアップ、宝酒造インターナショナルグループでは仕入コストの上昇が想定を上回る水準で推移しており、これに対する対応の遅れが主な要因であると考えています。

業績

- 宝グループ連結の売上高は対前期で増収。前期の健康食品事業、キノコ事業の譲渡による減収を宝酒造、宝酒造インターナショナルグループの伸長で補う。
- 営業利益は、タカラバイオグループが増益となるも、原材料価格や仕入コストの上昇、費用の増加による宝酒造、宝酒造インターナショナルグループの減益が大きく、グループ全体で減益。
- 期初予想に対しては、売上、利益ともに下回って推移。

成長投資

- 国内酒類事業のRTD（ソフトアルコール飲料）生産ライン増強を9月までに完了。
- タカラバイオグループのCDMO事業拡大を見据えた新施設を建設、1月に稼働予定。
- 海外日本食材卸事業ではミューチャルトレーディングの物流倉庫拡充に向けた投資を継続。

事業戦略の転換

- タカラバイオグループの遺伝子医療事業で、「腫瘍溶解性ウイルスC-REV」の開発計画を変更し、すい臓がんを対象とした開発に引っ張り注力する方針へ。

▶ 2020年3月期上期の宝グループ全体の概況は記載の通りです。

Ⅱ．2020年3月期 事業戦略

2．宝酒造（国内事業）

- ▶各グループの事業戦略について、国内事業を担う宝酒造からご説明します。

◆当期の事業戦略

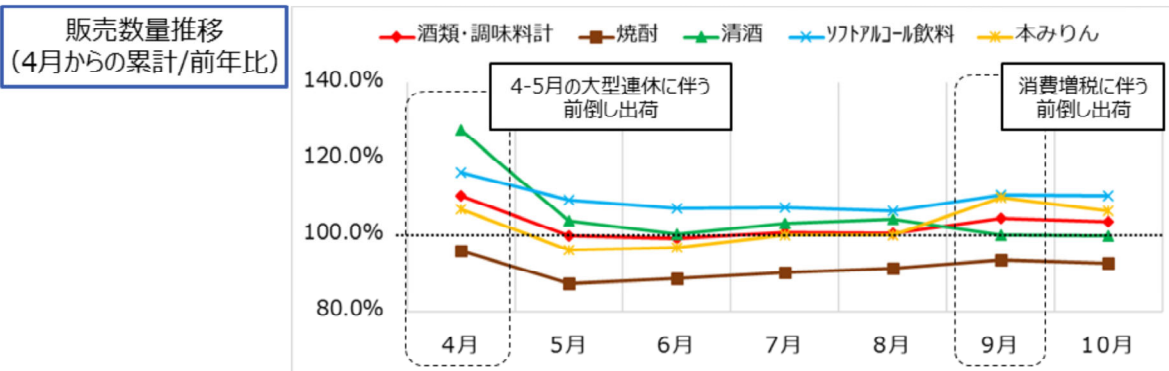
- 清酒、焼酎、調味料の各カテゴリーで、技術で差異化された商品開発に引き続き注力し、市場シェアをさらに高めることで、和酒No.1の確固たるポジションを盤石化する。
- 缶入りチューハイのパイオニアとして、樽貯蔵熟成酒等の強みを活かしたブランドの育成と積極的な新商品の投入により、RTD市場において、独自のポジションを構築する。

2020年3月期上期 概況

- 前期に対しては、焼酎の減少が続くも、ソフトアルコール飲料（RTD）が引き続き好調。調味料や原料用アルコール等も増収、清酒もほぼ前期並みとなり、全体で増収。さらなる増収を目指した期初計画に対しては未達。
- 消費税増税施行前の9月には駆け込み需要が発生したが、下期への影響は限定的。
- 清酒は「天」が好調に推移したものの、「零」や「豪快」が前年を下回る。
- ソフトアルコール飲料（RTD）は、タカラ「焼酎ハイボール」や「極上レモンサワー」が好調。
- 焼酎は主力の甲類大型容器や乙類焼酎が大きく落ち込む。
- 利益面では、原価コストアップの影響が大きく、営業利益は減益に。

▶ 2020年3月期の事業戦略と上期の概況は記載の通りです。

宝酒造 上期の販売状況



(参考) 4-8月累計*

カテゴリー別 数量前年比 (4-10月累計)	4-10月累計	宝酒造		市場全体
		宝酒造	市場全体	
焼酎	92.7%	91.3%	94.1%	
清酒	99.8%	104.2%	96.5%	
ソフトアルコール飲料(RTD)	110.4%	110.1%	109.0%	
本みりん	106.5%	100.0%	97.8%	
酒類・調味料計	103.5%	100.5%	—	

*ソフトアルコール飲料は1-6月累計の前年比。市場データは業界団体等の情報に等に基づく推計値。



20

▶ 上期のカテゴリー別の販売状況についてご説明します。

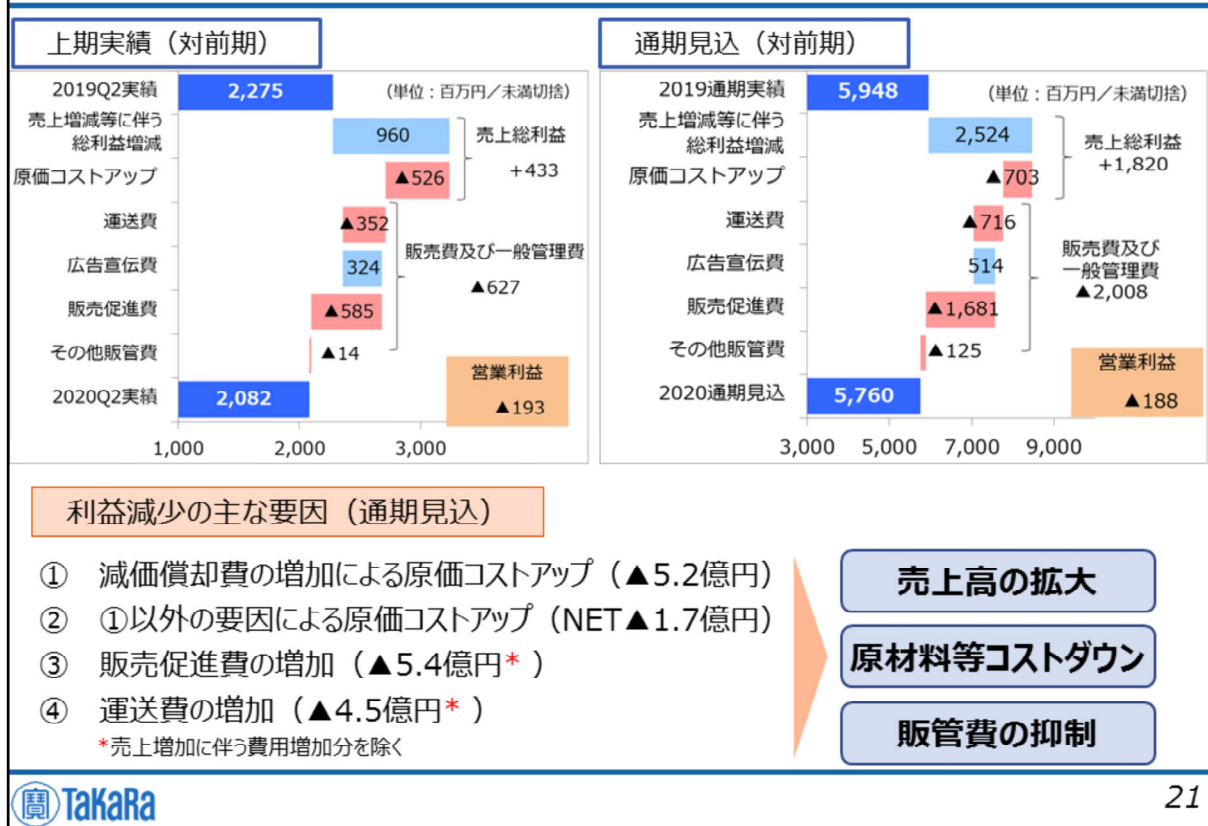
＜販売数量推移＞

- ▶ 4月末から5月にかけて大型連休があったことから、4月には各カテゴリーで前倒し出荷が発生しました。
- ▶ 5月はその反動により出荷がやや伸び悩みましたが、7月、8月には正常化しました。
- ▶ 9月には消費増税を見越した駆け込み需要が発生し、10月には再び反動減がありましたが、11月以降は正常化していくものと見ています。

＜カテゴリー別数量前年比＞

- ▶ 多くのカテゴリーで前年並みあるいはそれ以上のペースで推移しており、市場を上回って伸ばしています。
- ▶ 当期の戦略である、和酒No.1の盤石化に向けた施策が浸透しつつあると見ています。

宝酒造 営業利益増減要因



▶一方で、売上高を伸ばしているにも関わらず、上期および通期見込が減益となっている要因についてご説明します。

<通期見込における利益減少の主な要因>

①減価償却費の増加による原価コストアップ

▶当期は9月までに缶チューハイの生産ラインの増強を行ったこともあり、減価償却費の水準が上昇しています。

②①以外の要因による原価コストアップ

▶原料用の粗留アルコールや、紙パック、ダンボール等の資材価格の上昇を想定しています。

③④販売促進費および運送費の増加

▶売上高の増加以上のコストが発生する見込みです。

▶こうしたコストアップや費用の増加に対しては、第一に売上高を伸ばすことで売上総利益を拡大すること、同時に、原材料等のコストダウンや、販管費の抑制に努めることで対応します。

▶運送費については、前述の缶チューハイの生産ラインの増強により、大消費地である東日本エリアでの生産能力が高まり、物流効率の向上が期待できます。

◆焼酎

【甲類】レモンサワー関連商品への注力継続と
中小容量対応のラインアップ強化

【乙類】「一刻者」の品質訴求強化と
「一刻者ハイボール」ラインアップ拡充



◆ソフトアルコール飲料（RTD）

既存ブランドの拡充と、「抹茶関連商品」による
新市場の創出



◆清酒

【霽】季節限定品を含めたラインアップ拡充

【天】多様化するユーザーニーズへの対応強化



◆調味料（本みりん・料理清酒）

「国産米100%」、「もち米100%」、「米麴」、
「糖質ゼロ」など分かりやすい付加価値を訴求



下期の事業戦略についてご説明します。

<焼酎>

- ▶ 甲類については、好調のレモンサワー関連商品への注力を継続するとともに、減少傾向にある40などの大容量製品の受け皿となる、1.8ℓや2ℓの中小容量に対応したラインアップを強化します。
- ▶ 乙類については、全量芋焼酎「一刻者」のブランド価値向上に向け、品質訴求の強化に継続して取り組むとともに、当期より展開中の「一刻者ハイボール」のラインアップを拡充し、トライアルユーザーの獲得にもつなげていきます。

<清酒>

- ▶ “松竹梅白壁蔵「霽」スパークリング清酒”のラインアップ拡充により、ブランド鮮度の向上を目指します。
- ▶ 2019年春にデザインリニューアルを行い一定の効果は確認できたものの、さらなるバラエティの充実を求めるユーザーの声は依然として大きく、これに応えることで、スパークリング清酒市場全体の活性化にも貢献します。

<ソフトアルコール飲料(RTD)>

- ▶ “タカラ「焼酎ハイボール」”をはじめとする既存ブランドの拡充に引き続き注力します。
- ▶ また、関東エリアを中心に人気の高まっている「抹茶ハイ」に注目し、「抹茶関連商品」による新たな市場の創出を目指します。

<調味料>

- ▶ 「国産米100%」や「糖質ゼロ」など、ユーザーに分かりやすい付加価値を引き続き訴求していくことで、需要を取り込みます。

Ⅱ．2020年3月期 事業戦略

3．宝酒造インターナショナルグループ (海外事業)

- ▶海外事業を展開する宝酒造インターナショナルグループについてご説明します。

◆当期の事業戦略

- 【海外酒類事業】 清酒を中心に、米国・中国での現地生産による“地の利”を活かした商品展開と、海外専用商品の開発・育成による輸出強化を進める。
- 【海外日本食材卸事業】 未進出エリアへの新規拠点進出や既存拠点の拡充により、さらなる卸ネットワークの拡大を図るとともに、物流効率化によるコストの抑制に取り組む。

2020年3月期上期 概況

- 海外酒類事業は、対前期、計画比ともに増収増益。海外への輸出向けに開発した専用商品（清酒）の販売を開始するなど、施策面でも進捗。
- 海外日本食材卸事業は、売上高は順調に拡大するも、仕入コストの上昇と費用の増加により、利益面では前期、計画をともに大きく下回る。北米のミューチャルトレーディングで進行中の倉庫拡張計画で一部のスケジュールが遅延し、追加費用が発生。

▶ 2020年3月期の事業戦略と上期の概況は記載の通りです。

事業概況＜海外酒類事業＞

(現地通貨ベース)	20/03期 第2四半期 実績	前期比		5/14予想比		20/03期 通期予想	前期比		5/14予想比	
		増減	率(%)	増減	率(%)		増減	率(%)	増減	率(%)
米 国 宝 酒 造 売 上 高	18,044	+ 1,396	+ 8.4	▲ 15	▲ 0.1	36,140	+ 2,307	+ 6.8	▲ 212	▲ 0.6
(千 US ド ル) 営 業 利 益	1,741	▲ 365	▲ 17.3	▲ 476	▲ 21.5	4,214	+ 861	+ 25.7	+ 1	+ 0.0
宝 酒 造 食 品 売 上 高	24,963	+ 75	+ 0.3	▲ 370	▲ 1.5	57,405	+ 1,006	+ 1.8	▲ 776	▲ 1.3
(千 円) 営 業 利 益	1,226	+ 16	+ 1.3	▲ 17	▲ 1.4	4,173	+ 197	+ 5.0	+ 37	+ 0.9
ト マ ー チ ン 売 上 高	8,778	+ 690	+ 8.5	+ 684	+ 8.5	19,440	+ 1,704	+ 9.6	+ 546	+ 2.9
(千 ポ ン ド) 営 業 利 益	1,889	▲ 81	▲ 4.2	▲ 101	▲ 5.1	5,380	+ 726	+ 15.6	+ 273	+ 5.3
エイジ・インターナショナル 売 上 高	12,030	+ 1,349	+ 12.6	+ 1,264	+ 11.7	25,888	+ 2,242	+ 9.5	+ 1,252	+ 5.1
(千 US ド ル) 営 業 利 益	5,326	+ 1,049	+ 24.5	+ 1,056	+ 24.7	11,105	+ 1,445	+ 15.0	+ 1,348	+ 13.8

- 〈米国宝酒造〉 清酒を中心に売上高はほぼ計画通りに推移しているものの、原料資材の高騰が利益を圧迫。下期から値上げを実施し、通期での利益計画達成を見込む。
- 〈宝酒造食品〉 主力の清酒は、日本からの輸入製品は好調だが、現地産の不調が影響し、計画には未達となる見通し。生産効率の改善や販管費の抑制により、利益面での計画達成をめざす。
- 〈トマーチン〉 バルク製品を中心に売上高は順調に推移するも、利益率の高いボトル製品がBrexit対策による前倒し出荷の反動もあり不調で、上期時点では利益計画未達の状況。ボトル製品の実販は伸長しており、通期では回復する見通し。
- 〈エイジ・インターナショナル〉 米国内への販売が計画を上回って推移しており、通期でも売上高・利益ともに計画を達成する見込み。



▶ 海外酒類事業の概況は記載の通りです。

事業概況＜海外日本食材卸事業＞

(現地通貨ベース)	20/03期 第2四半期 実績	前期比		5/14予想比		20/03期 通期予想	前期比		5/14予想比	
		増減	率(%)	増減	率(%)		増減	率(%)	増減	率(%)
フーデックスグループ 売上高	86,595	+ 7,907	+ 10.0	+ 1,096	+ 1.3	180,556	+ 21,060	+ 13.2	+ 8,202	+ 4.8
(千ユーロ) 営業利益	7,851	▲ 1,313	▲ 14.3	▲ 2,294	▲ 22.6	17,479	+ 612	+ 3.6	▲ 2,225	▲ 11.3
タザキフーズ 売上高	21,935	+ 2,183	+ 11.1	+ 436	+ 2.0	45,400	+ 5,390	+ 13.5	+ 2,400	+ 5.6
(千ポンド) 営業利益	906	▲ 664	▲ 42.3	▲ 580	▲ 39.0	1,999	▲ 658	▲ 24.8	▲ 800	▲ 28.6
ミューチャルトレーディング 売上高	182,369	+ 17,155	+ 10.4	▲ 1,988	▲ 1.1	371,484	+ 30,268	+ 8.9	▲ 15,015	▲ 3.9
(千USドル) 営業利益	3,496	▲ 3,619	▲ 50.9	▲ 4,389	▲ 55.7	7,860	▲ 4,046	▲ 34.0	▲ 8,039	▲ 50.6
ニッポンフード 売上高	27,475	+ 1,264	+ 4.8	▲ 2,724	▲ 9.0	56,981	+ 1,510	+ 2.7	▲ 5,119	▲ 8.2
(千AUSドル) 営業利益	▲ 1,580	▲ 1,891	-	▲ 2,162	-	▲ 2,403	▲ 2,599	-	▲ 3,521	-

- 〈フーデックスグループ〉 地域により差異はあるものの、ラーメンなどの人気により売上高は順調に推移。利益面ではユーロ安による仕入コスト上昇や外部倉庫の利用による費用増加が続いており、期初計画には未達となる見通し。
- 〈タザキフーズ〉 料飲店やテイクアウェイ店向け販売が好調に推移し、売上高は順調に拡大するが、ポンド安による仕入コスト上昇と、Brexit対策のための在庫増強に伴う運送費の増加が利益を圧迫。
- 〈ミューチャルトレーディング〉 売上高は堅調に推移するも、利益面では前年および期初計画を大きく下回る。対中国の追加関税や競争激化等による売上総利益率の低下と、倉庫費用や人件費をはじめとする販管費の増加が要因。物流拠点の移転・拡張により、今後は物流コスト改善の方向へ。
- 〈ニッポンフード〉 シドニーを中心に競争激化が続いており、売上高は微増に止まる見通し。豪ドル安による仕入コスト上昇、運送費の大幅な増加等が影響し、赤字となる見込み。

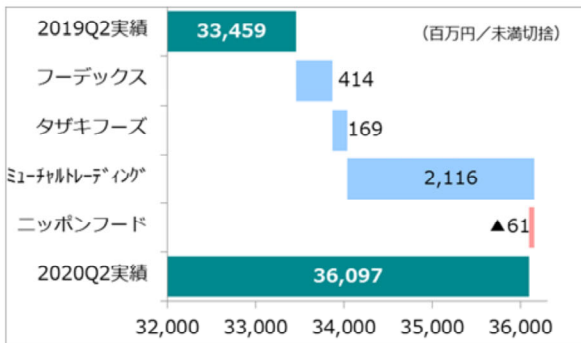


26

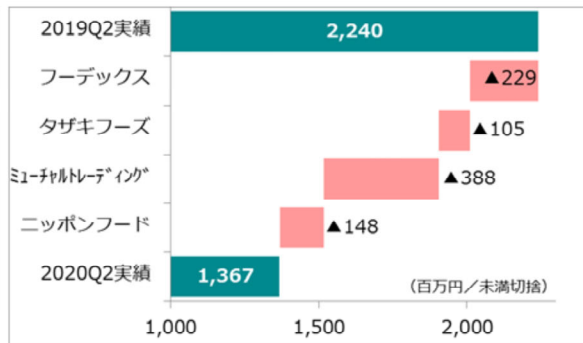
▶ 海外日本食材卸事業の概況は記載の通りです。

事業概況 <海外日本食材卸事業>

売上高増減内訳（前期比）



営業利益増減内訳（前期比）



利益減少の主な要因（上期実績）

- ① 為替換算レートの変動による影響（▲0.5億円）
- ② 為替変動による仕入コストの上昇（▲3.3億円）
- ③ ②以外の仕入コストの上昇（▲2.2億円）
- ④ 人件費、運送費等の増加（▲4.1億円*）

*売上増加に伴う費用増加分を除く

販売価格への転嫁

物流効率の向上

共通購買の推進



27

- ▶ 海外日本食材卸事業について、売上高の伸長に対し各社減益となっている要因についてご説明します。

<上期実績における利益減少の主な要因>

- ① 為替換算レートの変動による影響
 - ▶ 海外子会社の業績を日本円に換算する際の為替レートが、前期に比べ円高に振れたことによる影響です。
- ② 為替変動による仕入コストの上昇
 - ▶ ユーロ安、ポンド安など、食材卸各社が展開する各国の通貨が下落したことにより、仕入コストが上昇したものです。
- ③ ②以外の仕入コストの上昇
 - ▶ コメなどの需要増加に起因する現地価格自体の上昇によるものです。
- ④ 人件費、運送費等の増加
 - ▶ 売上高の増加以上に費用が増加したものです。

- ▶ こうした環境変化に対して、価格上昇分の販売価格への転嫁を進めています。
- ▶ 物流効率の向上については、北米のミューチャルトレーディングで倉庫スペースの拡張や複数点在する倉庫の集約などを進めています。
- ▶ 共通購買の推進については、当社グループの食材卸ネットワークを活用し、将来的には共通購買によるスケールメリットの創出などシナジー効果の発揮を目指します。
- ▶ 当期は利益面では厳しい状況ですが、売上高は順調に拡大しており、海外の日本食市場は今後も成長が見込まれています。
- ▶ 本中計の方針に掲げる「世界の和酒・和食のリーディングカンパニー」に近づけるよう、中長期的な視点で、しっかりとした事業基盤の構築に取り組むと思います。

Ⅱ．2020年3月期 事業戦略

4．経営基盤の強化

- ▶グループの経営基盤強化についてご説明します。

中期経営計画の進捗状況（経営基盤の強化）

基盤強化	● 海外での事業拡大に合わせた新規グループ会社の事業基盤強化 ● グローバル規模でのリスクマネジメント推進、品質保証体制強化、IT基盤構築
風土・人財	● 「宝ホールディングス歴史記念館」を活用した人財育成への注力 ● グループ人事戦略の強化 ● 女性・定年退職者の活躍推進継続
CSR	● 「宝ホールディングスコーポレートガバナンスポリシー」に則した体制整備 ● 自然環境保護、リサイクル等の社会貢献・環境活動への取り組み継続 ● 投資環境の動向を踏まえたESG情報開示の推進

取組み状況

- 株主・投資家との対話を踏まえ、本年6月の定時株主総会終結の時をもって、買収防衛策を廃止。また、同定時総会を経て社外取締役を1名増員し、取締役会に占める独立社外取締役の割合を3分の1以上とする体制を構築。
- ESG情報開示に関する現状分析を実施。次期中計でのテーマアップを視野に、当社グループが対応すべきESG課題の選定を進める。

▶ 経営基盤の強化に向けた重点テーマと、直近の取組み状況は記載の通りです。

株主還元

財務方針	健全な財務体質を維持しながら、成長投資を行うとともに、適切な株主還元を実施することによってROEを向上させ、適正な株価水準を実現する。
アクションプラン	①優位に資金調達できる環境を捉えた、適時・適切な資金調達の実施 ②配当方針*に則った配当の実施と、自己株式取得・消却等さらなる株主還元策の検討 ③政策保有株式の機動的な売却の検討と、成長投資・株主還元資金への充当によるROE向上策の検討

	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	2020年3月期 通期予想	中計3ヵ年計 (合計/平均)	自己株式の取得・消却
連結営業利益（百万円）	15,612	17,804	17,500	50,916	<取得> ・取得株式数：200万株（上限） （発行済株式総数に対する割合1.00%） ・取得総額：20億円（上限） ・取得期間：2019/11/18～2020/1/17 <消却> ・消却株式数：200万株 （発行済株式総数に対する割合0.99%） ・消却日：2020/1/31
1株あたり配当金（円）	16.0	18.0	20.0	-	
配当総額（百万円）	3,194	3,593	3,952	10,740	
みなし配当性向	29.6%	29.3%	32.7%	30.6%	
自己株式取得（百万円）	2,000	-	2,000	4,000	
総還元性向	47.1%	34.5%	57.2%	46.3%	
ROE	7.9%	7.1%	6.9%	7.3%	

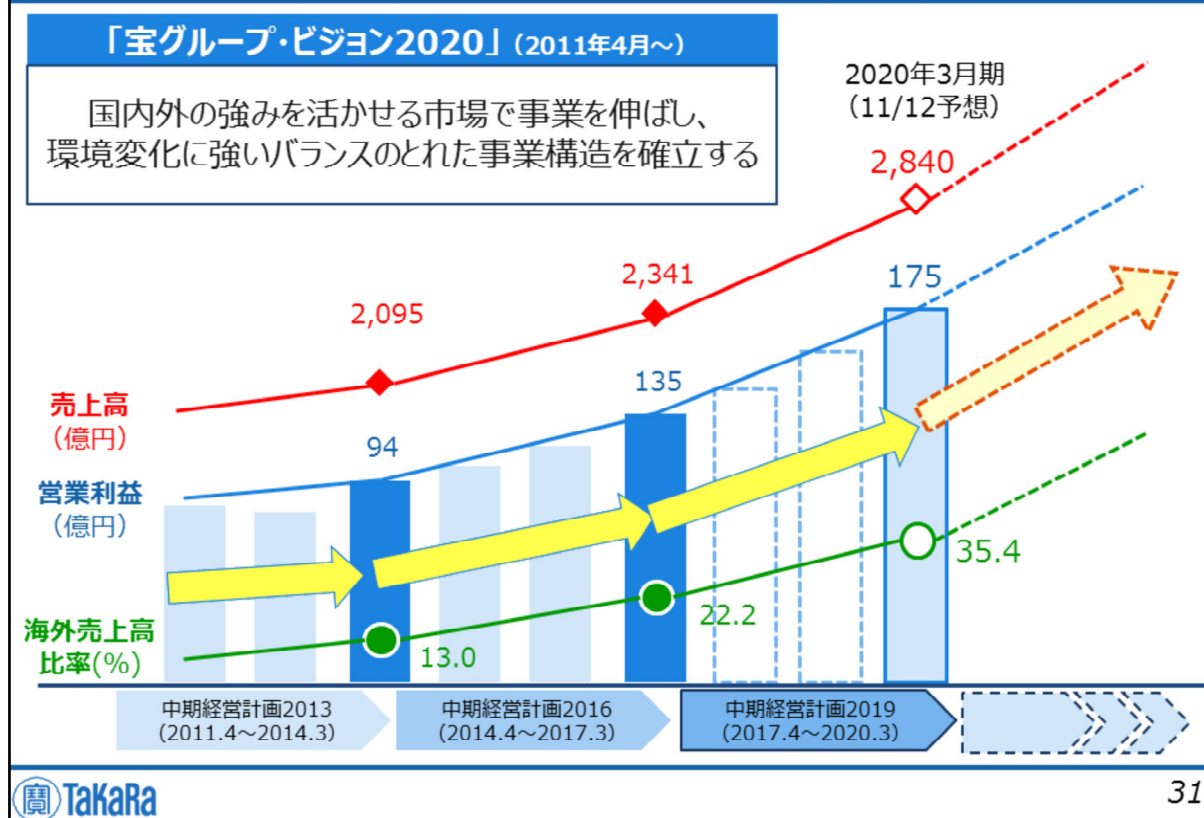
*配当方針：みなし配当性向＝配当総額／（連結営業利益×（1－法定実効税率））≒30%



30

- ▶株主還元の状況についてご説明します。
- ▶当社グループは中期経営計画において、記載のような財務方針を掲げ、株主還元等をおこなっています。
- ▶2020年3月期の1株当たりの配当については、5月に発表した期初予想を据え置き、前期に比べ2円増配の1株当たり20円とする計画です。これを実施した場合の2020年3月期のみなし配当性向は32.7%、中計3ヵ年の平均は30.6%となる見込みです。
- ▶政策保有株式についても一部売却を予定しており、今回の決算にあわせて発表したように、自己株式の取得を行うことでROEの向上にも努めます。

長期経営ビジョン



- ▶ 当社グループは、2011年4月から10年間の長期経営ビジョン「宝グループ・ビジョン2020」の実現に向けて、3年ごとの中期経営計画を策定し、取り組みを進めてまいりました。
- ▶ 次期2021年3月期からは新しい中期経営計画をスタートさせ、これに合わせて新たな中長期の経営ビジョンも策定する予定です。
- ▶ 「宝グループ中期経営計画2019」最終年度の定量目標に掲げた売上高、営業利益の水準を達成するのは難しい状況ですが、要因と課題をしっかりと分析し、新しい経営計画に活かしてまいります。
- ▶ 次年度以降に飛躍するためにも、まずは残り半年、本日ご説明した当期の計画を達成できるようグループ一丸となって取り組みを進めていきます。

【以上】

将来見通しに関する注意事項

この資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

＜お問合せ先＞

宝ホールディングス株式会社

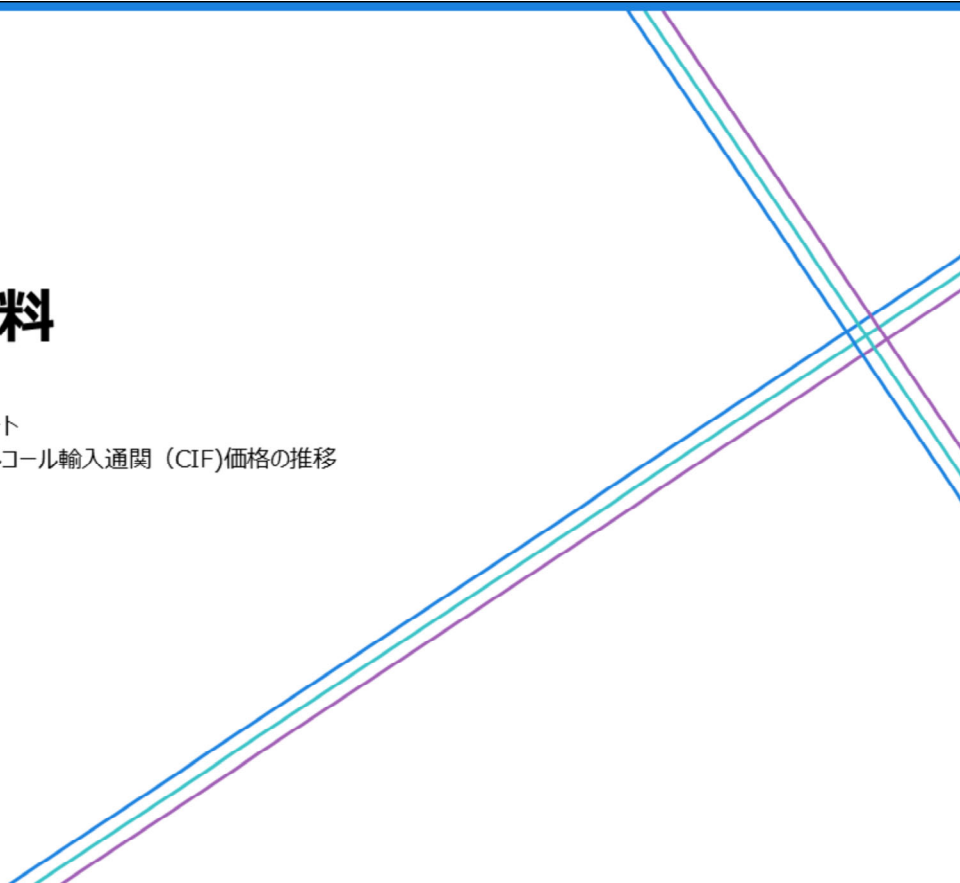
I R 部

E-Mail ir@takara.co.jp

TEL 075-241-5124

参考資料

- 為替レート
- 粗留アルコール輸入通関（CIF）価格の推移

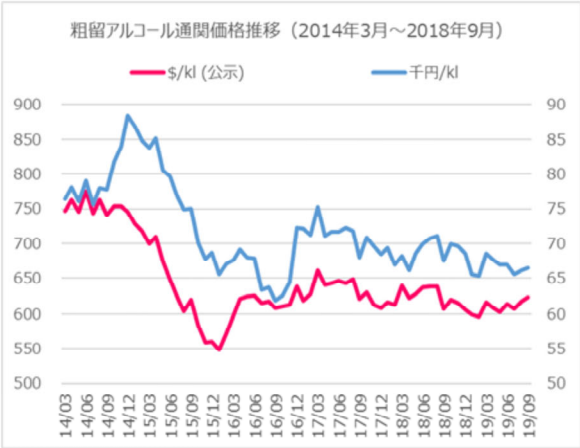


第2四半期（1月～6月）為替レート実績

(単位: 円)	2019年3月期 (2018年1月-6月)	2020年3月期 (2019年1月-6月)			
	実績	5/14予想	実績	前期差	5/14予想差
米ドル	108.68	108.00	110.06	+ 1.38	+ 2.06
ポンド	149.62	145.00	142.44	▲ 7.18	▲ 2.56
ユーロ	131.55	125.00	124.32	▲ 7.23	▲ 0.68
人民元	17.09	15.60	16.20	▲ 0.89	+ 0.60
100ウォン	10.10	9.50	9.61	▲ 0.49	+ 0.11
インドルピー	1.66	1.50	1.57	▲ 0.09	+ 0.07
スウェーデンクローナ	12.97	12.40	11.83	▲ 1.14	▲ 0.57
シンガポールドル	81.94	78.30	80.99	▲ 0.95	+ 2.69
オーストラリアドル	83.85	78.00	77.74	▲ 6.11	▲ 0.26

通期（1月～12月）為替レート予想

(単位: 円)	2019年3月期 (2018年1月-12月)	2020年3月期 (2019年1月-12月)			
	実績	5/14予想	11/12予想	前期差	5/14予想差
米ドル	110.45	108.00	108.30	▲ 2.15	+ 0.30
ポンド	147.40	145.00	134.50	▲ 12.90	▲ 10.50
ユーロ	130.35	125.00	121.30	▲ 9.05	▲ 3.70
人民元	16.71	15.60	15.60	▲ 1.11	—
100ウォン	10.04	9.50	9.20	▲ 0.84	▲ 0.30
インドルピー	1.62	1.50	1.55	▲ 0.07	+ 0.05
スウェーデンクローナ	12.71	12.40	11.50	▲ 1.21	▲ 0.90
シンガポールドル	81.86	78.30	79.50	▲ 2.36	+ 1.20
オーストラリアドル	82.55	78.00	75.40	▲ 7.15	▲ 2.60



	2019年3月期		2020年3月期		前期差	
	千円/kl	\$/kl	千円/kl	\$/kl	千円/kl	\$/kl
4月	66.1	622.2	67.6	608.0	1.5	▲ 14.2
5月	68.5	628.3	66.9	602.2	▲ 1.6	▲ 26.0
6月	70.0	636.9	66.9	613.7	▲ 3.0	▲ 23.2
7月	70.7	638.6	65.6	607.6	▲ 5.1	▲ 31.0
8月	71.1	638.5	66.2	617.4	▲ 4.9	▲ 21.1
9月	67.5	606.8	66.5	623.0	▲ 1.0	16.2
10月	70.0	619.9			-	-
11月	69.6	615.8			-	-
12月	68.5	605.7			-	-
1月	65.5	598.7			-	-
2月	65.4	596.2			-	-
3月	68.5	616.6			-	-
年間平均	68.5	618.7	66.6	612.0	▲ 1.8	▲ 6.7

（出所：財務省貿易統計、為替レートは税関庁公示レートの月平均値）